

第3章 まちづくりの基本理念と目標

1 まちづくりの基本理念と目標

(1) まちづくりの基本理念

海と緑の奏でるハーモニー・タウン金沢

金沢区の区づくりの基本理念は、“海と緑の奏でるハーモニー・タウン金沢”です。

これには、金沢区の特徴である海と緑が区民の皆さまにもっと身近に感じられるよう、自然とまちとのハーモニー、人と人とのふれあいのあるまちづくりをしていこうという意味合いを込めています。

(2) まちづくりの目標

訪れたい、住みたいまち・環境未来都市 金沢を目指して

まちづくりの目標は、“訪れたい、住みたいまち・環境未来都市 金沢を目指して”を設定します。

少子高齢化や地球温暖化などの社会的課題に対応するため、地域、企業、大学、行政といった多様な主体が力を合わせて金沢の魅力、子育て、健康、防災などに関する新しい仕組みやサービスの創出に共に取り組み、誰もが「つながり」を実感できる、安全で安心して健やかに住み続けられる、魅力あふれるまちを目指します。

2 金沢区の将来像

金沢区のまちづくりは、区の魅力となっている自然、歴史、文化、産業、大学といった視点を大切にしつつ、都市がもつ魅力(都市アメニティ)を高めることを基本とします。

そして、将来の都市骨格の枠組みを3つの柱として位置付け、多様な主体との協働により、訪れたい、住み続けたいと思える魅力あふれるまちづくりを進めます。

●「訪れたい、住みたいまち・環境未来都市 金沢を目指して」における主な施策の方向

訪れたい、住みたいまち・環境未来都市 金沢を目指して

多様な主体との協働により、訪れたい、住み続けたいと思える魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

目標達成に向けた3つの柱

にぎわいと活力のある
まちづくり

誰もが安心して暮らし続ける
ことができるまちづくり

自然との共生による
潤いのあるまちづくり

【柱1】にぎわいと活力のあるまちづくり

自然や歴史などの豊富な地域資源を生かした「歩く観光」を育成し、区に点在する観光施設との連携強化を進めるとともに、優れた技術力など金沢区の魅力を広く発信していくことで交流の活性化を推進します。

○「歩く観光」の育成と観光施設との連携強化

金沢区は歴史資源、文化資源と自然環境を一体として大切に保全しつつ、金沢らしい景観形成を図っています。それらの魅力的な地域資源を活用したウォーキングルート等を整備することで区内居住者の身近な観光・交流(歩く観光)を活性化し、さらに区内に点在する観光施設との連携を強化していくことで区外からの観光との両軸で交流の活性化を推進します。

○産業

金沢区には、1,000社を超える企業が集積しています。特に臨海部には「鳥浜工業団地」、「金沢産業団地」があり、さらには官民の研究開発施設も立地する市内有数の産業集積エリアです。今後新たに横浜環状南線などの交通網が整備され、エリアの価値向上も期待されています。既存産業の更なる成長と新たな産業の立地促進に向けた取組を推進します。

○大学との連携

金沢区では、関東学院大学・横浜市立大学と連携し、「大学の活力を生かしたまちづくり」に取り組んでいます。大学が二つあるという金沢区ならではの強みを生かし、大学と区が連携することで、両大学の知識や施設だけでなく、大学生の発想力や行動力を生かし活力ある個性豊かなまちをめざしていきます。

【柱2】誰もが安心して暮らし続けることができるまちづくり

まちの防災力の強化、駅周辺市街地の充実、郊外部における地域交通の拡充や空家対策、団地再生など持続可能な住宅市街地の形成を進め、誰もが安心して暮らし続けることができるまちの実現を目指します。

○まちの防災力の強化

金沢区は豊かな自然に囲まれている一方で、低地部や崖地に面した住宅地も多く存在することから、地震、津波、土砂災害等に対する備えが重要です。地域ごとの実情を踏まえた、きめ細やかな防災対策を行政と区民の皆さまとの協働により推進していきます。

○「生活拠点」としての駅周辺市街地等の充実

生活の拠点となっている駅周辺市街地などを、都市基盤の再編、商業・業務機能の集積と活性化、まち並みの魅力化などにより、充実化を図っていきます。

○地域生活圏域での環境づくり

金沢区を構成する各地域に培われた固有な文化を大切にしながら、アクセス性の向上、質の高いまち並み環境の維持・創出を進め、さらに子育て世代や高齢者など多様な世代が安心して快適に暮らし続けることができる市街地環境をつくっていきます。

【柱3】自然との共生による潤いのあるまちづくり

「緑の尾根軸」「海の水際線」「谷戸から海への軸」といった金沢区を象徴する3つの自然環境の保全・創出・育成に取り組み、積極的に活用していくことで、人と自然との共生による持続的なまちづくりを目指します。

○「緑の尾根軸」の保全・創出と活用

「緑の尾根軸」は、多摩・三浦丘陵の一翼を担う円海山山系と、旧海岸線に連続する段丘面に存在する森を、能見堂緑地等で結ぶ軸です。地域を広く縁取り、市街地の背景となる尾根筋を中心とした緑地の連なりを保全・創出し、憩いの場としての活用を図っていきます。

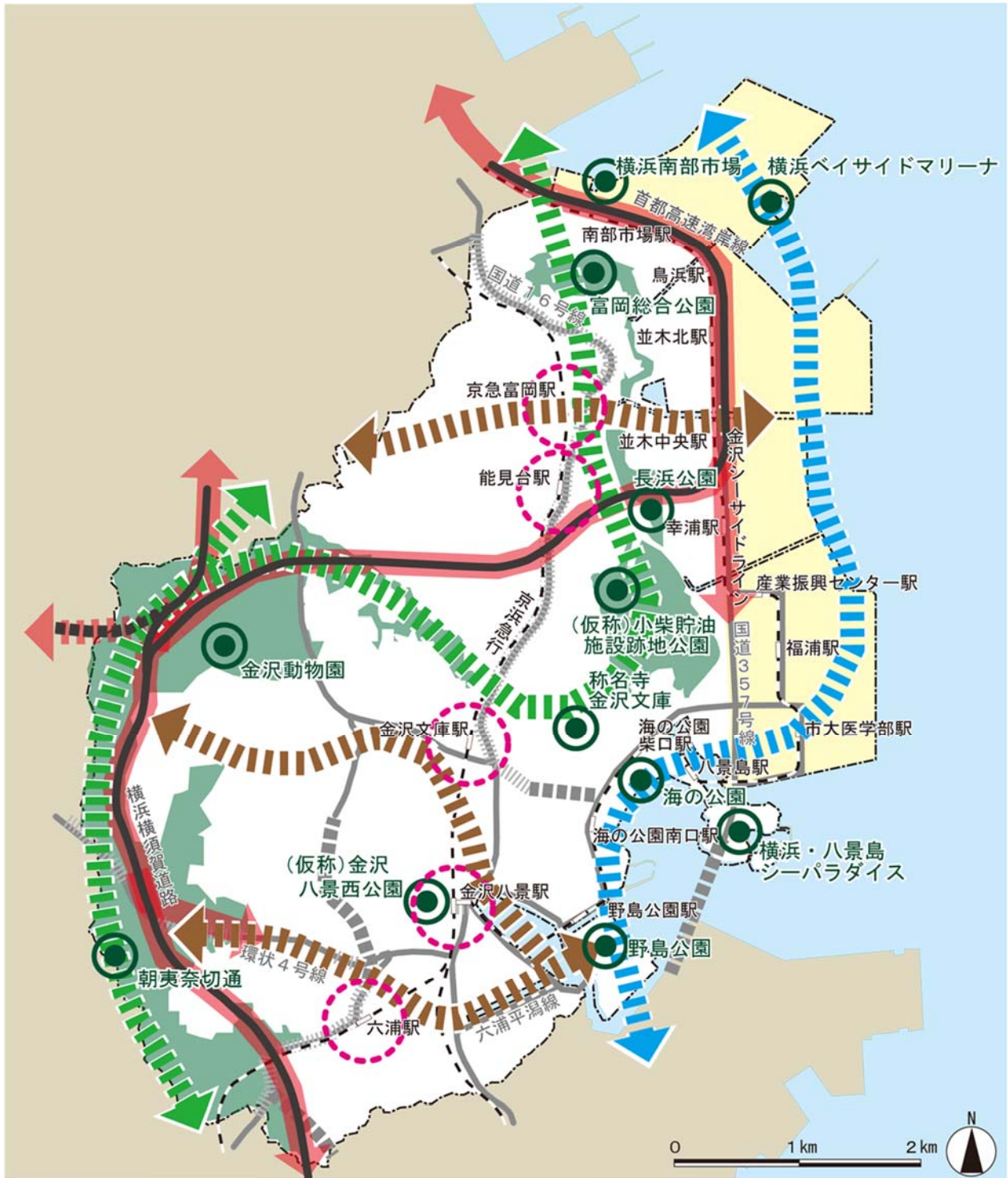
○「海の水際軸」の保全・創出と活用

市内唯一の自然海岸を擁す野島海岸、人工的に砂浜を再生した海の公園と埋立てにより形成された区北部の水際線を結び、市街地の前面に広がる海との接点となる水際空間を、多様な海の生物が生息しやすい環境として保全・創出するとともに、親水性豊かで、区民が海とふれあえる場として活用していきます。

○3本の「谷戸から海への軸」の育成

侍従川、宮川、富岡川という3つの水系によって刻まれた谷戸を中心として形成されてきた生活軸で、豊かな生態系を持つ川を中心とした自然環境の保全・創出を図ります。また、この軸には幹線道路等が通り、商店街が発達し、歴史的資産も豊富であることから、地域コミュニティの核となる空間として育成していきます。

●将来の都市構造図



区界	生活拠点 (京浜急行の 各駅周辺)	緑の尾根軸
鉄道(既存旅客路線)	市街化を抑制 すべき地域	海の水際軸
高速道路(既存)	主な観光施設	谷戸から海への軸
幹線道路(既存)		主要な広域アクセス路
高速道路(整備予定)		臨海部の産業拠点
幹線道路(整備予定)		
幹線道路(既存道路 の整備予定区間)		